エコアクション21
環境経営レポート









株式会社晴栄運送	
活動期間	2025 年 4 月～2026 年 3 月
作成日	2026 年 4 月 30 日

目次

1. 環境経営方針 2

2. 組織の概要 3

3. 認証対象範囲 4

4. 組織図 4

5. 事業活動の内容 5

6. 施設の状況 6

7. 処理工程図 7

8. 環境への負荷の状況（2025 年 4 月～2026 年 3 月） 8

9. 環境目標 8

10. 環境目標とその実績（活動期間 2025 年 4 月～2026 年 3 月） 10

11. 環境活動計画の内容と取組結果の評価 11

12. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無 12

13. 代表者による見直し（指示事項）（2026 年 4 月 30 日実施） 12

14. 次年度以降の環境経営目標・環境経営計画 13

1. 環境経営方針

≪ 環 境 経 営 方 針 ≫

当社は、「地球環境保全、循環型社会に貢献する」をモットーに、廃棄物の適正処理、分別によるリサイクル事業に取り組みます。また、当社の関係する環境関連の法律、規制、条例等の遵守はもとより、地球温暖化防止や資源の有効活用を図るため、以下の環境目標に取り組み、環境マネジメントシステムの継続的改善に努めます。

（1）エコドライブ推進、燃料使用及び電気使用の節約に取り組み、
　　二酸化炭素排出量の削減に努めます。
（2）運搬車両の燃費向上に努めます。
（3）受託した産業廃棄物のリサイクル率の向上に努めます。
（4）節水教育による水の使用量の削減に努めます。

当社の環境経営方針は、社内に掲示し、全ての従業員に周知します。
また、環境活動を「環境経営レポート」に記載し公表します。

2008 年 5 月 1 日制定
2026 年 4 月 30 日改定
株 式 会 社 晴 栄 運 送
代 表 取 締 役　谷 口　良

2. 組織の概要

（1）商号及び代表者名

商　　号:株式会社晴栄運送

代表者名:代表取締役　谷口　良

（2）法人設立年月日:昭和38年10月29日

創立年月日:昭和33年12月1日

（3）資本金:500万円

（4）所在地

本社:東京都足立区関原 1-5-31

本社駐車場:東京都足立区梅田3－25

埼玉駐車場:埼玉県八潮市二丁目1142、1105

埼玉産業廃棄物処理センター: 埼玉県八潮市二丁目1088－1

戸ヶ崎支店:埼玉県三郷市戸ヶ崎 5-43-2

（5）事業活動

産業廃棄物中間処理業、産業廃棄物収集運搬業(積替え保管含む)、一般貨物運送業

(6)環境管理責任者氏名及び連絡先

環境管理責任者:総務部長　佐藤　勇気

事務局:営業部長　柴野　孝宏

連絡先:埼玉県八潮市二丁目1088－1

電話:048－948－8999

FAX:048－948－8993

E-Mail:info@haruei.com

ホームページアドレス:http://www.haruei.com/

埼玉産業廃棄物処理センターアドレス:https://www.sanpaishobun.com/

(7)事業の規模(4月～3月)

	2023年度	2024 年度①	2024 年度②
	4 月～3 月	4 月～9 月(6 か月間) 決算時期を3月から9月に変更したため。	10 月～9 月
売上高(百万円)	259	158	414
従業員(人)	28	37	42
本社敷地面積(㎡)	506	506	105
埼玉産業廃棄物処理センター敷地面積(㎡)	975	975	975

(8)2025 年度実績(2025 年4月～2026 年3月)

廃棄物種類	2025 年度
産業廃棄物収集運搬量(トン)	1, 874
産業廃棄物中間処理量(トン)	2,224

3. 認証対象範囲

全組織・全活動・全従業員を対象としています。

〇事業活動

産業廃棄物中間処理業、産業廃棄物収集運搬業、一般貨物運送業

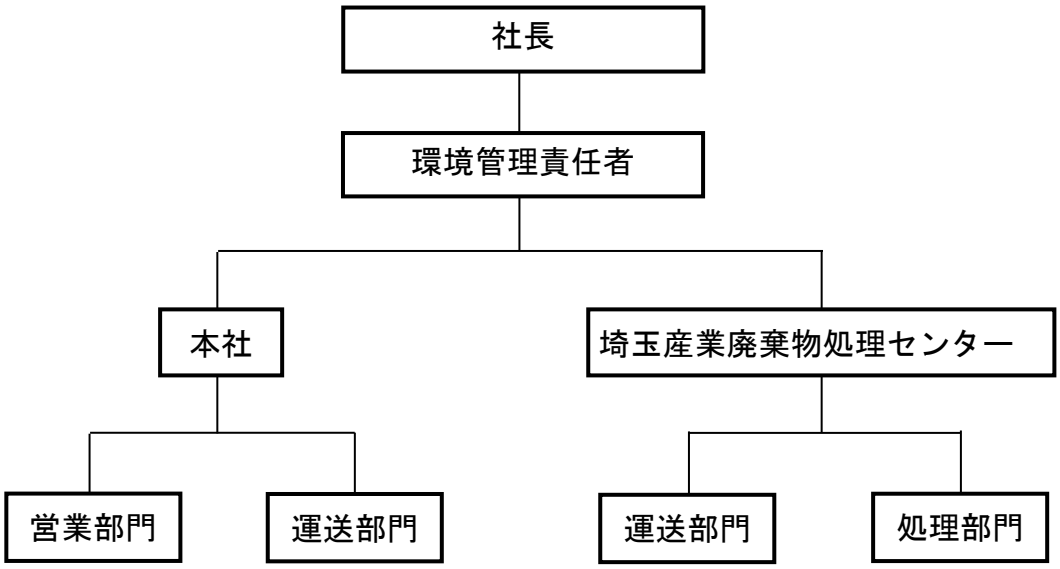
〇対象事業所

本社：東京都足立区梅田4－22－11

埼玉産業廃棄物処理センター: 埼玉県八潮市二丁目1088番地1

（戸ヶ崎支店：埼玉県三郷市戸ヶ崎 5-43-2 は 2026 年 4 月から活動開始）

4. 組織図



≪役割・責任≫

社長	環境経営方針の策定 代表者による環境活動の見直し 必要な経営資源（設備・人材等）の投入 環境管理責任者の任命
環境管理責任者	環境経営システムの確立・実施・維持 代表者見直し時に環境活動状況報告
営業部門	環境目標への取組実施 顧客との折衝及び契約書の締結・管理
運送部門	環境目標への取組実施 マニフェスト、実績報告の管理、配車依頼の受注 貨物運送業務、収集運搬業務
処理部門	環境目標への取組実施 処理業務、収集運搬業務及び積替え保管業務、マニフェスト管理

5. 事業活動の内容

(1)産業廃棄物収集運搬業　＜許可の内容＞

	許可番号	許可年月日	許可の有効年月	産廃の種類(これらのうち特別管理産業廃棄物であるものを除く)												
				廃プラスチック類	金属くず	ガラス陶磁器くず	紙くず	繊維くず	木くず	がれき類	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	動植物性残さ
埼玉県	011100 50034	R4. 9.12	R9. 8.31	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○
茨城県	008010 50034	R5. 4.27	R10. 3.5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	／	／	／
栃木県	009000 50034	R6. 3.28	R11 3.27	○	○	○	○	○	○	○	○	○	／	／	／
群馬県	010000 50034	R5. 1.16	R10. 1.15	○	○	○	○	○	○	○	○	○	／	／	○
千葉県	012000 50034	R5. 4.20	R10. 3.30	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
東京都	13000 50034	R4. 9.19	R9. 9.18	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
神奈川県	14020 50034	R5. 7.4	R10 7.3	○	○	○	○	○	○	○	○	／	／	／	○
静岡県	022010 50034	R7. 8.19	R10. 8.18	○	○	○	○	○	○	○	○	／	／	／	○

◎･･･積み替え保管を含む。

（東京都の全種類は、石綿含有産業廃棄物及び水銀使用製品産業廃棄物を含む。）

（東京都以外は、廃プラスチック及びガラス陶磁器くずは石綿含有産業廃棄物及び水銀使用製品産業廃棄物を含む。金属くずは水銀使用製品産業廃棄物を含む。がれき類は石綿含有産業廃棄物を含む。）

（栃木県及び静岡県汚泥は石綿含有産業廃棄物を含む）

（千葉県汚泥は水銀使用製品産業廃棄物を含む）

(2)埼玉産業廃棄物処理センター;積替保管施設(埼玉県八潮市二丁目字下1088番1)

積替え保管施設の種類及び能力等(保管施設面積975.2㎡)

産業廃棄物の種類	保管面積	保管高さ	保管上限
廃油	1.9㎡	0.9m (屋内)	0.8㎥(200Lドラム缶×4個)

(3)産業廃棄物処分業

許可行政	埼玉県	
許可番号	第01120050034	
新規許可	平成23年2月25日	
許可期限	令和 13 年2月24日	
業の区分	破砕	圧縮梱包
廃棄物品目	廃プラスチック類※、紙くず※、木くず、繊維くず※、金属くず※、ガラス・コンクリート・陶磁器くず※、がれき類	廃プラスチック類、紙くず、繊維くず、金属くず
備考	※・・・再生利用可能なものを除く	再生利用可能なものに限る

○埼玉産業廃棄物処理センター処理施設:(埼玉県八潮市二丁目字下1088番1)

	品目	処理能力(1日9時間)	備考
破砕施設 1 処理能力	廃プラスチック類	4.82t／日	再生利用可能なものを除く
	紙くず	3.45t／日	
	繊維くず	2.53t／日	
	金属くず	11.09t／日	
	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	12.73t／日	
破砕施設 2 処理能力	木くず	2.81t／日	
	がれき類	4.63t／日	
圧縮梱包施設 処理能力	廃プラスチック類	16.02t／日	再生利用可能なものに限る
	金属くず	1213.48t／日	
	紙くず	203.67t／日	
	繊維くず	162.94t／日	

(4)一般区域貨物運送事業

許可番号	63東陸自貨2第1187号

(5)自動車運送取扱事業

許可番号	関東自登第12061号

6. 施設の状況

(1)運搬車両　全 47 台

【うち産廃登録車両 38 台】

・キャブオーバ:11台

・塵芥車:2台

・脱着装置付コンテナ専用車:6台

・ダンプ:1 台

・バン:18 台

(2)その他

【埼玉産業廃棄物処理センター)

・小型ユンボ　　3台

・フォークリフト　　2台

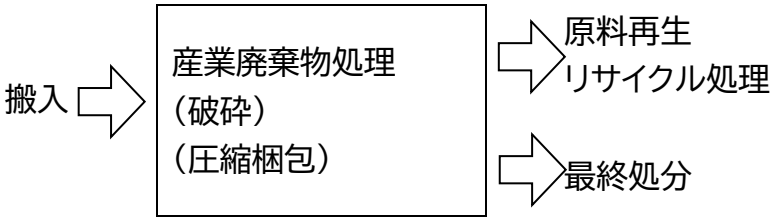
・40トン台貫　　1か所

【本社】

・フォークリフト　1台

7. 処理工程図

(埼玉産業廃棄物処理センター)



株式会社晴栄運送　産業廃棄物処理の基本的な流れ

① 産業廃棄物を自社又はお客様の車両で、弊社産業廃棄物処理施設へ搬入

② 産業廃棄物を台貫により重量を計測

③ 荷降ろしヤードへ産業廃棄物を荷降ろし

④ 産業廃棄物を分別する(産業廃棄物・金属くず・他リサイクル可能な物を分別)

⑤ 産業廃棄物を破砕機や圧縮梱包機に投入し、分別によるリサイクルや最終処分場の埋め立て規格のサイズにして搬出する

⑥ 産業廃棄物を弊社車両に積込み

⑦ 売却先事業場、リサイクル工場、最終処分場へ運搬し、適正処理



上記写真は埼玉産業廃棄物処理センター工場内であり、破砕機及び圧縮梱包機で処理を行い、作業員が協力して分別を徹底し、リサイクルを推進しています。

8. 環境への負荷の状況(2025 年 4 月～2026 年 3 月)

令和 5 年度東京電力エナジーパートナー調整後排出係数 0.431kg－CO2／kWh を使用
本社移転後令和 6 年度東京ガス調整後排出係数 0.368kg－CO2／kWh を使用

温室効果ガス排出	二酸化炭素排出量	kg-CO_2	437,970
受託した産業廃棄物量	収集運搬量	トン	1,874
	中間処理量	トン	2,224
総排水量	下水道	m3	1,188
水資源投入量	上水	m3	1,188

9. 環境目標

(活動期間;2025 年度～2027 年度)(2025 年 4 月改定)

環境目標項目	基準年度基準値		2025 年度	2026 年度	2027 年度
二酸化炭素排出量の削減	2024 年度実績(363,406 kg－CO_2) R5 年度東京電力エナジーパートナー調整後排出係数 0.431kg－CO_2／kWh を使用	目標	基準比 1%削減 (359,772 kg-CO_2)	基準比 2%削減 (356,138 kg-CO_2)	基準比 3%削減 (352,504 kg-CO_2)
		達成手段	①エコドライブによる燃費向上 ②電気使用量削減(処理作業効率化、エアコン適正使用) ③重機のアイドリングストップ推進 ④環境省 Fun to share、埼玉 SDGsパートナー登録への取組	①エコドライブによる燃費向上 ②電気使用量削減(処理作業効率化、エアコン適正使用) ③重機のアイドリングストップ推進 ④環境省 Fun to share、埼玉 SDGsパートナー登録への取組	①エコドライブによる燃費向上 ②電気使用量削減(処理作業効率化、エアコン適正使用) ③重機のアイドリングストップ推進 ④環境省 Fun to share、埼玉 SDGsパートナー登録への取組
処理量あたりの二酸化炭素排出量(電力のみ)の削減	2024 年度実績 (19.43kg－CO_2／トン) (注1参照)	目標	基準比 1%削減 (19.23kg－CO_2／トン)	基準比 2%削減 (19.04kg－CO_2／トン)	基準比 3%削減 (18.84kg－CO_2／トン)
		達成手段	①電気使用量削減(処理作業効率化、エアコン適正使用)	①電気使用量削減(処理作業効率化、エアコン適正使用)	①電気使用量削減(処理作業効率化、エアコン適正使用)

環境目標 項目	基準年度 基準値		2024 年度	2025 年度	2026 年度
車両燃費の向上	2024 年度実績（5.979 km／L）	目標	基準比 0.5%向上（6.009 km／L）	基準比 1%向上（6.039km／L）	基準比 1.5%向上（6.069km／L）
		達成手段	①エコドライブの推進（急発進防止） ②車両点検の実施 ③エコドライブ資料での教育	①エコドライブの推進（急発進防止） ②車両点検の実施 ③エコドライブ資料での教育	①エコドライブの推進（急発進防止） ②車両点検の実施 ③エコドライブ資料での教育
リサイクル率の向上	2024 年度実績（90.9%）	目標	2024 年度実績の水準維持（90.9%）	2024 年度実績の水準維持（90.9%）	2024 年度実績の水準維持（90.9%）
		達成手段	①分別教育の徹底 ②リサイクル処理ルートの開拓	①分別教育の徹底 ②リサイクル処理ルートの開拓	①分別教育の徹底 ②リサイクル処理ルートの開拓
水使用量の削減	2024 年度実績（1,196m3）	目標	2024 年度実績の水準維持（1,196m3）	2024 年度実績の水準維持（1,196m3）	2024 年度実績の水準維持（1,196m3）
		達成手段	①節水（節水ノズルの使用、漏水点検） ②散水及び洗車水適正使用 ③節水ステッカーの貼付	①節水（節水ノズルの使用、漏水点検） ②散水及び洗車水適正使用 ③節水ステッカーの貼付	①節水（節水ノズルの使用、漏水点検） ②散水及び洗車水適正使用 ③節水ステッカーの貼付

注1･･･二酸化炭素排出量 35,012 ㎏－CO2／処理量 1802.2 トン＝19.43kg－CO2／トン

（当社は、化学物質の使用はないため、目標に設定していません。）

10. 環境目標とその実績（活動期間 2025 年 4 月～2026 年 3 月）

NO	年度目標	責任部門	目標値	結果及び評価
1	二酸化炭素排出量 2024 年度比、 1%削減 R5 年度東京電力エナジーパートナー調整後排出係数 0.431kg－CO2／kWh を使用	全社 環境管理責任者	359,772 kg -CO_2	437,970kg-CO_2 未達成 ・二酸化炭素排出量は増加となった。 ・軽油使用について、営業担当の増員及び関連会社からの受注案件拡大により、小回りの利く3トン車を増車し、回収回数が増加し、車両燃料が増加した。ただ、燃費の良い車両でエコドライブを推進している。なお、重機の稼働率が増え軽油使用が増加したことも要因として考えられる。重機使用については、低速モードで使用するように周知する。 ・本社移転後は新たに灯油、LP ガスを使用している。 ・受け入れ廃棄物や回収頻度の変更等の変化があるため、次年度は今年度基準で目標値を再設定する必要がある。
2	処理量あたりの二酸化炭素排出量（電力のみ）の削減 2024 年度比、 1%削減	全社 環境管理責任者	19.23 kg-CO2／トン	7.297kg -CO2／トン （437,970.2/2,223.9） 達成 ・処理量あたりの二酸化炭素排出量削減目標においては、処理量が増加し効率化したことにより達成となった。
3	車両燃費向上 2024 年度比、1%向上	全社 環境管理責任者	6.009 km／L	6.124km／L 達成 ・年度末にかけて燃費の良い車両を複数台増車したことにより、燃費向上目標が達成となった。 ・安全運転やエコドライブ教育を実施したことにより、エコドライブ意識も向上している。 ・小回りの利く3トン車を増車し、回収回数が増加した。その結果、車両燃料が増加しているが、燃費の良い車両で目標達成につながった。

NO	年度目標	責任部門	目標値	結果及び評価
4	リサイクル率の向上 2024 年度水準維持	処理部門	90.9%	94.8% 達成 ・処理施設の稼働率が向上している中、合間の時間で分別を徹底し、リサイクル率を向上させることができた。 ・特に、金属、プラスチック、木くずの分別によりリサイクルを徹底し、最終処分量が減るように推進できている。
5	水使用量の削減 2024 年度水準維持	全社 環境管理責任者	1,196㎥	1,188㎥ 達成 ・受入量が増加傾向にあり、近隣への配慮として①廃棄物飛散防止、②夏場猛暑対策、③におい対策としての散水及びミスト散布で使用量が増加傾向にあるがわずかに達成することができた。 ・車両洗車台数が増加していることも水使用量増加の要因として考えられる。

11. 環境活動計画の内容と取組結果の評価

環境活動計画の内容	取組結果	評価
エコドライブによる燃費向上	急発進急ブレーキ防止などエコドライブを推進している。車両へのデジタコ設置で燃費向上に取り組んでいる。	5
電気使用量削減（処理作業効率化、電力デマンド監視サービス利用、エアコン適正使用）	空運転を防止し、処理施設の効率運転に取り組んでいる。工場及び事務所に LED 照明を設置している。本社移転後の関原でも LED 照明を使用している。デマンド監視サービスの表示を参考に、工場内での節電に取り組んでいる。	4
環境省 Fun to share、トラック協会グリーンエコプロジェクトへの参加、埼玉 SDGsパートナー登録への取組	環境省 Fun to share、トラック協会グリーンエコプロジェクトへの参加、埼玉 SDGsパートナー登録への取組等に参加し、省エネ活動やエコドライブを推進している。	4
重機アイドリングストップ	重機のアイドリングストップ、必要な時のみ作業を実施	4
エコドライブの推進（急発進防止）	アイドリングストップ等についてドライバーの意識が向上してきている。	5
車両点検の実施	出庫前の点検を日報に記録している。	4

環境活動計画の内容	取組結果	評価
エコドライブ資料での教育	エコドライブ資料を周知した。	4
分別教育の徹底	従業員の努力により、金属、プラスチック、木くず等の分別が徹底されている。リサイクル率が向上し最終処分量を削減することができた。	5
リサイクル処理ルートの開拓	サーキュラーエコノミー資料を配布し、顧客へ分別方法を伝えたり、リサイクル先の提案を推進している。	4
節水（節水ノズルの使用、水道管の漏れ確認）	散水時の節水ノズルの利用が出来るようになり、節水意識が高まった。漏水点検を徹底するようにした。	4
散水及び洗車水適正使用	車両が増加し、洗車時の水使用が増加傾向にあるが、節水指導を継続している。近隣配慮のために散水を継続している。	3
節水ステッカーの貼付啓蒙	水道付近に掲示している。	4

（評価点） 5点：90%以上　4点：70%以上　3点：50%以上　2点：30%以上　1点：30%未満
（スケジュールに対する進捗度等の対計画比で評価する）

12. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

・2026 年4月に環境関係法令等の遵守状況を確認した結果、問題は無かった。なお、過去3年間、関係当局からの違反等の指摘はなく、また訴訟もありません。

【主な環境関連法令：廃棄物処理法、消防法、八潮市公害防止条例】

当社では環境法令のうち重要なテーマである産業廃棄物処理法の順守体制を強化するための従業員教育を徹底しています。従業員それぞれの立場で適正処理のお手伝いを行っています。

13. 代表者による見直し（指示事項）（2026 年 4 月 30 日実施）

・環境目標について、受け入れ量あたりの二酸化炭素排出量（電力のみ）削減目標、燃費向上目標、リサイクル率向上目標が達成となった。処理効率の向上、燃費の良い車両を複数台増車したことが考えられ、燃費向上での省エネ活動を継続すること。

・二酸化炭素排出量削減目標が未達成となった要因は車両増加による燃料使用の増加が考えられるため、引き続きエコドライブ教育を実施すること。

・環境経営目標は2025 年度基準として3か年環境経営目標を改定する。なお、戸ヶ崎支店を開設したため、次年度から認証対象として環境負荷の集計を開始する。

14. 次年度以降の環境経営目標・環境経営計画
(活動期間;2026 年度～2028 年度)(2026 年 4 月改定)

環境目標 項目	基準年度 基準値		2026 年度	2027 年度	2028 年度
二酸化炭素排出量の削減	2025 年度実績(437,970 kg－CO_2) (注 1 参照)	目標	基準比 1%削減 (433,590 kg-CO_2)	基準比 2%削減 (429,211 kg-CO_2)	基準比 3%削減 (424,831 kg-CO_2)
		達成手段	①エコドライブによる燃費向上 ②電気使用量削減(処理作業効率化、エアコン適正使用) ③重機のアイドリングストップ推進 ④環境省 Fun to share、埼玉 SDGsパートナー登録への取組 ⑤電力購入先の変更による再エネ利用の検討	①エコドライブによる燃費向上 ②電気使用量削減(処理作業効率化、エアコン適正使用) ③重機のアイドリングストップ推進 ④環境省 Fun to share、埼玉 SDGsパートナー登録への取組 ⑤電力購入先の変更による再エネ利用の検討	①エコドライブによる燃費向上 ②電気使用量削減(処理作業効率化、エアコン適正使用) ③重機のアイドリングストップ推進 ④環境省 Fun to share、埼玉 SDGsパートナー登録への取組 ⑤電力購入先の変更による再エネ利用の検討
処理量あたりの二酸化炭素排出量(電力のみ)の削減	2025 年度実績 (7.297kg－CO_2／トン) (注 2 参照)	目標	基準比 1%削減 (7.224kg－CO_2／トン)	基準比 2%削減 (7.151kg－CO_2／トン)	基準比 3%削減 (7.078kg－CO_2／トン)
		達成手段	①電気使用量削減(処理作業効率化、エアコン適正使用)	①電気使用量削減(処理作業効率化、エアコン適正使用)	①電気使用量削減(処理作業効率化、エアコン適正使用)
車両燃費の向上	2025 年度実績 (6.124 km／L)	目標	基準比 0.5%向上 (6.154 km／L)	基準比 1%向上 (6.185km／L)	基準比 1.5%向上 (6.216km／L)
		達成手段	①エコドライブの推進(急発進防止) ②車両点検の実施 ③エコドライブ資料での教育	①エコドライブの推進(急発進防止) ②車両点検の実施 ③エコドライブ資料での教育	①エコドライブの推進(急発進防止) ②車両点検の実施 ③エコドライブ資料での教育
リサイクル率の向上	2025 年度実績 (94.8%)	目標	2025 年度実績の水準維持(94.8%)	2025 年度実績の水準維持(94.8%)	2025 年度実績の水準維持(94.8%)
		達成手段	①分別教育の徹底 ②リサイクル処理ルートの開拓	①分別教育の徹底 ②リサイクル処理ルートの開拓	①分別教育の徹底 ②リサイクル処理ルートの開拓

環境目標 項目	基準年度 基準値		2026 年度	2027 年度	2028 年度
水使用量の削減	2025 年度 実績 (1,188m3)	目標	2025 年度実績の水準維持(1,188m3)	2025 年度実績の水準維持(1,188m3)	2025 年度実績の水準維持(1,188m3)
		達成手段	①節水(節水ノズルの使用、漏水点検) ②散水及び洗車水適正使用 ③節水ステッカーの貼付	①節水(節水ノズルの使用、漏水点検) ②散水及び洗車水適正使用 ③節水ステッカーの貼付	①節水(節水ノズルの使用、漏水点検) ②散水及び洗車水適正使用 ③節水ステッカーの貼付

注1･･･本社は R6 年度東京ガス調整後排出係数 0.368kg－CO2／kWh を使用
工場は、二酸化炭素排出係数は R5 年度東京電力エナジーパートナー調整後排出係数 0.431kg－CO2／kWh を使用
注 2･･･二酸化炭素排出量 437,970.2 ㎏－CO2／処理量 2,223.9 トン＝7.297kg－CO2／トン
（当社は、化学物質の使用はないため、目標に設定していません。）